

# 大切な人の大切なものを大切にすること

リーダーシップと聞くと、指導したり、ビジョンを語ったり、統率したりというイメージがありますが、それだけではありません。相手を思いやる心がないと誰もあなたについてきてはくれません。今回は、人を束ねていくリーダーになるために必要な「情緒」とは何かを皆さんと考えていきたいと思います。



**中** 国の古典『史記・刺客伝』に「士は己を知る者の為に死す」という言葉があります。「自分の真価を認めてくれた人のためなら命を捧げてもよい」という意味です。少しオーバーな表現に感じますが、命と時間と考えると、何かに時間を使うことは命を削っていると言えるでしょう。

リーダーとしては、指導下にその貴重な時間を仕事に費やしてもらわなければ成果を出すことはできません。魅力的な目標や公のためといった、大きな志がリーダーに必要なのは、こういった理由があるのです。『情緒と日本人』という天才数学者の岡潔先生の書籍があります。メリット、デメリットの損得勘定やコストパフォーマンスの良し悪しではなく、義理人情こそが日本人の特徴であり、それによってまとまることのできるということです。そして、私が尊敬する、歴史上の人物や先輩たちから「情緒」について学んできましたが、その一つが「大切な人の大切なものを大切にすること」です。

仁徳天皇は民の暮らしを眺めた際、炊煙すいえん

が立ち上がっていないことに気づき、民の貧しさを憂いて3年間の租税を免除したとされています。「民のかまど」というお話です。天皇陛下にとっての宝物は国民であり、その国民にとって大切な食事がとれているかどうかを、大切にされていたのです。

## 私

は、大切な社員の大切な日を大切にしています。手帳を新調した際、必ずやることの一つに全社員170名の誕生日、社員の奥様の誕生日、結婚記念日、子どもの誕生日を記入しています。誕生日を迎える社員とは、毎月誕生日会を開催しており、誕生日プレゼントを渡して、楽しくお祝いをしています。また、社員の奥様の誕生日には、八天堂のくりーむぱんを贈っています。

最も大切にしているのは、社員の一親等以内の方の命日です。若くして、お父様やお母様を亡くされた方も10名以上います。手帳の日付のところにも名前を記載しており、会ったときにはその社員に声がけをします。驚いた表情で「覚えていてくれたの

ですわ」と目を潤ませる社員もいます。誕生日のお祝いをしている横で、悲しい想いをしている社員がいることを理解しなければリーダーは務まりません。この心配りに、才能は必要なく、誰でも努力すればできることだと思えます。

時々、ずいぶん年期の入った古いデザイナーのネクタイをしている若者を見かけます。20代の頃の自分なら「古いから新しいものに変えよう」と心ない言葉を言っていたかもしれません。今は「変わったデザインだね、どうしたの」と聞くようにしています。すると、祖父からもらった形見、お父さんの勝負ネクタイを就職したときにももらったなど、特別な想いを話してくれます。古いネクタイが、相手にとってはどんなブランドネクタイよりも大切なものなのです。

相手が大切にしているものを大切に思うことが重要です。いろいろな価値観のある方と手を組んでワンチームとなり戦っていくためには、人には人の大切なものがそれぞれあるのだということを、学び続けることが大切だと思います。

(株)キャリアコンサルティング 代表取締役社長 室舘 勲  
MURODATE Isao

2003年に株式会社キャリアコンサルティングを設立。全国で若者の育成に取り組む。千葉県教頭会第1ブロック研究大会、むつろータリークラブ創立65周年式典など講演実績多数。全国社内木鶏経営者会 副会長。ミス・ワールド・ジャパンの講師・審査員。著書に「夢を見て 夢を叶えて 夢になる」(致知出版社)、「まずは上司を勝たせなさい」(講談社)、「『応援される人』にならなさい」(ワック)がある。